

# 令和元年度「鳥取県農業改良普及所外部評価検討会」の開催結果について

令和2年11月27日  
とっとり農業戦略課

本県の農業改良普及活動に対して各方面の委員の皆様から評価をいただき、その結果を今後の普及組織体制、普及活動に反映し、よりの確で効果的な現地支援活動を展開することを目的に、以下のとおり、標記検討会を開催しました。この検討会は平成27年度から開催しており、この度が第5回目となります。

## 1 外部評価検討会の手順

(1) 各普及所管内における「地域の意見を聴く会」

- ①実施時期 2月中旬～下旬
- ②出席者 管内農業者（指導農業士等）、市町村・JA担当課長ほか
- ③内容 各地域における日頃の普及活動や今後の計画に対する意見・要望を聴取

(2) 全県の外部評価検討会

- ①開催方法 例年は園芸試験場 講堂を会場に会場で評価会を開催している。  
本年は新型コロナの国内感染拡大により、開催を2回延期したが、  
（当初計画：令和2年3月24日、再調整：令和2年8月19日）。  
最終、事務局と委員長とで実施方法を協議し、書面での評価を行った。  
評価期間：令和2年9月23日～令和2年10月27日
- ②評価者 農業者代表（指導農業士等）5名、鳥取大学・JA・報道機関・民間事業者からの代表者各1名、消費者代表（公募委員）1名の合計10名（男5名、女5名）
- ③評価対象課題（7課題）  
・令和元年度主要普及課題（評価委員が、各普及所の候補3～4課題の中から1課題を選定）

## 2 評価結果（※意見等の詳細は、別紙）

優れた取組との評価が4課題、妥当な取組との評価が3課題あり、今後の効率的な普及活動についての具体的な改善事項についても提言をいただいた。

農業改良普及所等組織名	区分	評価対象普及活動課題名	普及指導活動の計画・課題設定	普及活動の経過と体制	普及指導活動の成果	合計点	評価
鳥取	果樹	国府ブドウ産地の再生 ～普及員がコーディネーターとなり産地再生～	4.5	4.4	8.0	16.9	◎
八頭	総合支援・女性	女性農業者の農業経営参画のための資質の向上 ～ネットワークを活かした学びの場の創出～	4.3	4.1	7.8	16.2	◎
倉吉	総合支援・新規就農者	農業担い手の確保・育成と経営改善支援 新規就農者を中心に～	4.3	4.1	8.0	16.4	◎
東伯	畜産	担い手畜産農家の育成支援	4.1	4.1	6.6	14.8	○
西部	加工流通・農業労働	白ねぎ作業改善の推進 腰痛対策を中心として～	4.5	4.5	8.4	17.4	◎
大山支所	作物	地域ブランド作物の産地育成	4.1	3.8	7.0	14.9	○
日野	野菜	白ねぎ、ピーマン等の生産性向上と産地維持	4.2	4.0	7.6	15.8	○

注)平均の端数処理の関係で、合計点は必ずしも一致しない。

(5点配点)	(5点配点)	(10点配点)	(20点満点)
【点数結果の凡例】	◎ 16点以上	○ 12点以上16点未満	△ 12点未満
	:優れた取組である	:妥当な取組である	:成果に乏しい取組である

(1) 評価の高かった取組

- 国府ブドウの産地再生に向け、アンケート調査等により、現状分析がしっかりできている。  
生産部、JA、行政機関が連携しながら生産者を支援し、各種事業を活用してブドウ園の施設整備が実現できた(鳥取)。
- 西日本一の白ネギ産地の課題について、アンケート調査等により現場の問題点を良く分析している。  
腰痛対策で鳥取大学医学部との連携や労務作業の軽減のための様々な取組を評価する。  
特に若手グループの積極的な参加もあり、今後にも期待したい(西部)。

(2) 具体的な提言事項

- 新規就農者、担い手農業者ともに、経営改善、技術指導は常時継続的に必要です。市町村やJA、生産部と連携する姿勢は評価します。後継者対策や担い手対策に相談から技術指導、経営支援まで総合的に支援する体制の確立に期待しています(倉吉)。

## 3 今後の対応

- 今回の結果はHP等で公開し、農家のみならず広く県民の皆様にも普及活動を情報発信する。
- 委員の意見をもとに、各普及所の普及活動計画を見直ししながら、効果的な普及活動となるように努めていく。

## 【別紙】

## 令和元年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

普及所等組織名: 評価課題名	取り組みの概要	点数	結果	委員からの主な意見
<b>鳥取:</b> 国府ブドウ産地の再生～普及員がコーディネーターとなり産地再生～	国府ブドウの産地再生のため、生産部や生産者の要望を関係機関とともに事業として具体化していくための支援活動。	16.9	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地の再生に向け、生産部、JA、行政機関が挙げて取組んだ、引き続き産地再生と農業者の所得確保に向けた支援を望みます。</li> <li>きめ細かい指導対応(技術指導、仲間づくり、ブランド化)を行い、若手後継者の育成に万全を期してほしい。</li> <li>国府という地域でブドウ生産に取組む「強み」は何なのか優位性を明確にしないと長続きしないのではと心配する面もある。</li> </ul>
<b>八頭:</b> 女性農業者の農業経営参画のための資質の向上～ネットワークを活かした学びの場の創出～	交流する場や学ぶ機会づくりを各種行い、女性農業者が経営に参画するに必要な技能や経験を高めるための支援活動。	16.2	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性や地域の理解が大切。家族を巻き込んだ取組にしてほしい。</li> <li>女子会の持続的な発展を望みます。</li> <li>女性の仲間は農業において大きな活力になると思う。女性活躍時代であり積極的に進めてほしい。</li> <li>今以上に女性が楽しく快適に仕事ができるよう導いてあげてください。</li> </ul>
<b>倉吉:</b> 農業担い手の確保・育成と経営改善支援～新規就農者を中心に～	新規就農者の経営発展のため、就農者が必要としている技術や知識の習得や交流する場を設け、各就農者の個別の就農計画を達成するための支援活動。	16.4	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農・担い手ともに経営改善や技術指導は継続的な支援が必要です。</li> <li>「新規就農だより」による情報共有は良い取組み。</li> <li>ITを活用した知識・技術の習得も時代の流れですが、人と人が対面してこそ得られるものも多い。</li> <li>新規就農者にとって地域との関わりも大切と思うが、普及員の方には身近な頼れる存在であってほしい。</li> <li>普及所と熟練農業者が連携してサポートできる取組が必要と思います。</li> </ul>
<b>東伯:</b> 担い手畜産農家の育成支援	飼養頭数が中規模(40頭以下)かつ経営主が40歳代の若手や、後継者が存在する「担い手」が将来的に規模拡大を図ることが管内酪農業の維持発展に重要ととらえ、各々が抱える経営課題の改善に向けた支援活動。	14.8	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備や作業改善では成果が得られたが、当初目標に対する課題も残っている。移転後の課題を解決するため、追跡調査や継続的な支援をしてほしい。</li> <li>猛暑は経営に大きく影響するので是非とも対策支援をお願いします。</li> <li>問題の原因は暑熱・換気だけでしょうか。</li> </ul>
<b>西部:</b> 白ねぎ作業改善の推進～腰痛対策を中心として～	体への負担が大きい白ねぎ栽培の作業改善を行うため、鳥取大学等とも連携しながら作業姿勢の改善や負担軽減に役立つ機器の導入などを行い、担い手確保や作業改善を進めるための支援活動。	17.4	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業者はもとより、JA、大学、医療専門機関も連携した取組は多面的、幅広い活動となり、大きな成果が得られた。</li> <li>若手農業者の意識の変化が現れたことが素晴らしい。</li> <li>現場主義での活動が見える。情報の共有化やメディア等への発信もできている。</li> <li>白ねぎ生産は腰痛を引き起こし易いので、作業機で完結する体系を圃場条件に合わせて提案できるような研究を進めて頂きたい。</li> </ul>
<b>大山支所:</b> 地域ブランド作物の産地育成	土地利用型の転換作物(パン用小麦)に着目した水田担い手農業者の経営安定のため、収益が上がる品質や収量向上を目指した活動。	14.9	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲作を中心に地大豆、小麦を加えた水田農業に取組む姿勢を評価したい。</li> <li>特に地元の豆腐、パン業者と連携し、地域ブランド作物として産地育成を進めようという前向きな取組である。</li> <li>小麦は栽培技術の確立、品種選定にもう少し期間が必要と思います。</li> <li>収量安定と低アミロ小麦を発生させないための適期作業を実現させるためには気象ビックデータの解析と活用が肝になると思います。</li> </ul>
<b>日野:</b> 白ねぎ、ピーマン等の生産性向上と産地維持	日野郡の主要園芸品目である白ねぎ、ピーマンの生産性向上と産地維持を図るため、省力化技術や経営への導入を高齢者、新規就農者、女性、集落営農等に普及促進を目指した活動。	15.8	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>過疎高齢化が顕著な日野郡にとって後継者対策と産地維持は非常に大きな課題である。その課題に向けて3町やJA、日南試験地などと連携し取組む姿勢を評価したい。</li> <li>日野ならではの課題、問題、苦労も多いと思うが、1つずつ具体的に課題を解決、継続的な地道な取組を期待したい。</li> <li>露地野菜が中心だが施設導入も検討されてはどうか、また、スマート農業時代に遅れないような技術手法が必要である。</li> <li>「ひっぱり君」で効率的な作業と仕上がりを実現するには圃場の排水性の確立が必要と思いますので、圃場の特性に合わせた排水対策メニューを提案して頂きたいです。</li> </ul>

## 【点数結果の凡例】

- ◎ 16点以上 : 優れた取り組みである  
○ 12点以上16点未満 : 妥当な取り組みである  
△ 12点未満 : 成果に乏しい取り組みである